

Hakuyukai - Dayori 博友会だより

秋 [No.3]
2009年10月

医療・看護・介護を通して地域に貢献いたします



もしも頭を打ったら…

医療法人社団博友会 平岸病院 神経科医長
高橋 克世 医師

医療法人社団博友会は5つの施設で社会貢献しています



平岸病院
精神科・神経科・内科
神経内科・歯科・訪問看護
赤平市平岸新光町2丁目1番地
TEL: 0125-38-8331



北の峰病院
精神科・神経科
富良野市中御料2062番地
TEL: 0167-22-2011



介護老人保健施設博寿苑
入所・短期入所
通所リハビリテーション
赤平市平岸新光町2丁目4番地
TEL: 0125-37-2001



平岸クリニック
精神科・神経科・心療内科・内科
リハビリテーション科・デイクア・ナイトケア
赤平市平岸新光町1丁目1番地
TEL: 0125-38-8393



共同生活援助事業所グループホーム博友荘
入居による生活援助
赤平市平岸新光町4丁目34番地
TEL: 0125-37-2077

もしも 頭を打ったら…

軽度の頭部打撲でも
頭蓋骨内に出血することがあります



忘れた頃に症状が出る慢性硬膜下血腫

高齢者の転倒事故が増えています。頭部を打撲し頭蓋骨内に出血が起きていても、症状が出るのが数ヵ月後だったり、本人が頭を打ったことを忘れていたりして、発見が遅れることがあります。頭を打ったら必ず受診し、その後の経過を見ましょう。

頭蓋内出血や脳損傷がある場合の症状

次のような症状があったら、迷わず受診しましょう。



高齢になると筋力やバランス感覚の低下で転倒しやすくなります

頭痛、吐き気や嘔吐

けいれん発作、ひきつけ

物忘れ、元気がない、集中できない

意識が低下し、ぼーっとしている、うとうと寝てしまう

徐々に進む神経症状
(手足に力が入らない・しびれる、言葉が出にくい・喋りづらい、歩行時のふらつきなど)

特に高齢者の場合は頭部打撲後の初診時検査で異常がなくても、1ヵ月後に必ず再検査することを勧められています。

頭を打った後、数日間は観察が必要です。頭を打ったことが原因で頭蓋骨の内側に出血する頭蓋内血腫は、命に関わる危険があり、場合

こる必要があります。受傷直後のCT検査やレントゲン検査で異常がなくても、その後、内出血が起こればと断言できません。また、検査では分からない脳神経の損傷が起これることがありますので、頭を打った後の数日は「体調の変化がないか」を家族が注意深く観察することが必要です。

頭を打ってから数ヵ月経って症状が出る慢性硬膜下血腫は、硬膜とクモ膜との間に数週間、数ヵ月かけて少量ずつ出血して血腫ができた状態です。特にお酒をよく飲む高齢者に多いのですが、酔っている状態をぶつけたという自覚がないために、症状が出ても認知症と間違われて、血腫の発見が遅れてしまうことがあります。血腫を除去するだけで完治することが多い経過が良好な疾患ですが、脳卒中やアルツハイマー病との鑑別診断も必要となりますので、気になる症状があったら必ず受診しましょう。



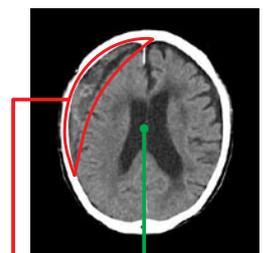
医療法人社団博友会
平岸病院 神経科医長
高橋 克世 医師

昭和20年 士別市生まれ
昭和46年 弘前大学医学部卒業
昭和46年 北海道大学医学部麻酔科入局
昭和49年 順天堂大学医学部神経内科入局
昭和51年 脳血管研究所美原記念病院勤務
昭和52年 平岸病院神経科勤務
平成8年 産業医
平成19年 精神保健指定医

によっては緊急手術を含む適切な治療が必要です。内出血は、頭を打つてすぐに起こることが多いのですが、時に数時間後、1日、2日後に起こることがあります。受傷直後のCT検査やレントゲン検査で異常がなくても、その後、内出血が起こればと断言できません。また、検査では分からない脳神経の損傷が起これることがありますので、頭を打った後の数日は「体調の変化がないか」を家族が注意深く観察することが必要です。

高齢者は 1ヵ月後に再検査を

慢性硬膜下血腫のCT画像



脳室が圧迫されています
三日月状の硬膜下血腫が大脳半球を圧迫しています

博友会物語②

医療法人社団博友会 理事長 谷 博



地域の診療所から 広域的な精神科病院に

入院患者が集まらず苦しかった黎明期

昭和28年から平岸診療所の院長を務めていた板垣二郎医師が、昭和31年に退職。志田伝医師を院長に迎えます。病床数は増え『平岸病院』となり、同年9月には地域住民の便宜を図るために富良野診療所を開設しました。内科医の志田院長は内科診療を行いながら、平岸小・中学校の校医を引き受けるなど、現在の地域医療の原型を作ります。精神科を担当する医師は、主に札幌医科大学付属病院精神科からの短期派遣医で確保していました。

しかし、入院患者は50人に至らず、病院としての経営はかなり厳しいものでした。当時事務長を務めた木田俊雄は資金繰りに苦慮しますが、精神障害者の増加を背景に昭和34年7月に病床数を71床に増床し、患者サービスを徐々に整えていきます。

1年間のつもりで平岸病院に着任

昭和36年4月に、札幌医科大学医学部付属病院から五十嵐邦彦医師が派遣医として平岸病院に着任しました。

このころになると、北海道で10番以内に開設された歴史ある精神科病院としての認知度も高まっていました。道東・道北の精神科ベッドの不足もあって、遠隔地から患者収容の要請が後を絶たず、病棟には定床を超える78人が入院治療を受けていました。

翌年、五十嵐医師の後任として着任したのが、31歳の私・谷博でした。札幌医科大学付属病院神経精神教室助手を経て、名寄市立病院の派遣勤務を終えたばかりでした。教授から任命された派遣期間は1年間。妻子を伴って着任しましたが、半世紀近くもこの地で医療を続けることになるとは思っていませんでした。

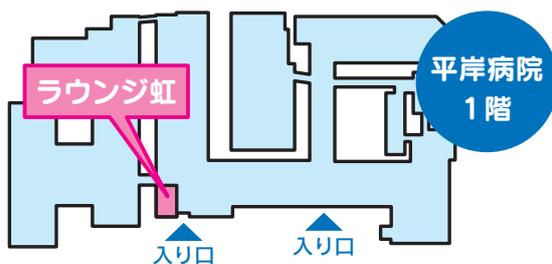
【次号に続く】

平岸病院

地域の皆様からも親しまれる喫茶店 「ラウンジ虹」

平岸病院1階にある喫茶店「ラウンジ虹」は開店18年目。落ち着く雰囲気と椅子の座り心地に定評があります。「ここに座ってコーヒーを飲んでみると、心が静かになり頭が冴えますよ」と谷博理事長。

笑顔で接客してくれるのは、佐々木さゆり店長と加藤江梨子さん、佐藤泰子さん。「生姜焼き定食やハンバーグ定食が人気。食後のコーヒーが150



【営業時間】 平日 10:00～ラストオーダー 17:30
／土日祝 10:00～ラストオーダー 16:30
【メニュー】 ホットコーヒー 300円・カフェオーレ 300円・生姜焼き定食 550円・ハンバーグ定食 550円・和風きのこスパゲッティ 500円などのほか、ケーキなどのティータイムメニューも豊富

円とお得です」。無休で営業していますので、お気軽にご利用ください。